

「インクルーシブな学校運営」通信 第20号

カリキュラム・マネージャー

「交流及び共同学習」経験で意識の差

生徒アンケート調査のクロス集計により、「交流及び共同学習」の経験がある生徒は、総じて、社会参加意識や自己肯定感、他校への授業参加意欲など高い結果が得られています。

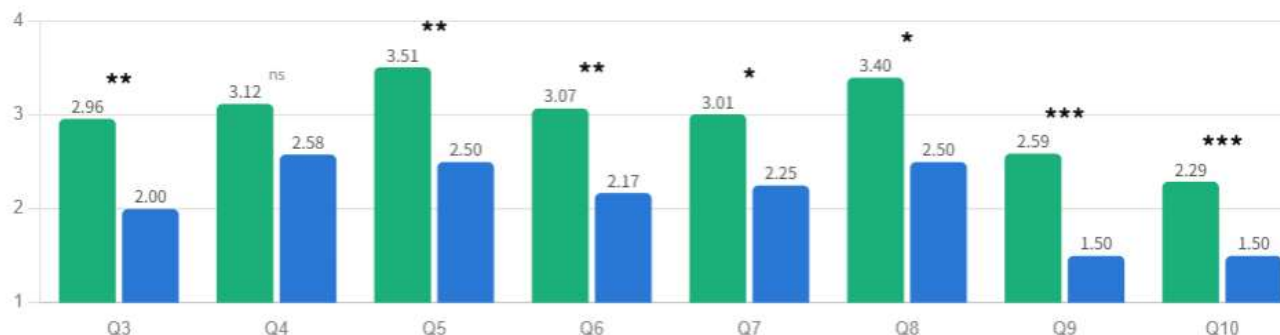
過去2回の調査で、同様の傾向が中高養生には見られていましたが、今年は更農生にも現れました。

以下のグラフは評定尺度法（「そう思う」を4、「そう思わない」を1、中間を3、2）によって、経験のある生徒群とない生徒群の平均値を比べたものです。

- Q3 これからも他の学校の生徒と交流したいですか？
 Q4 お祭りや防災訓練など、値域の活動に参加したいと思いますか？
 Q5 人の役に立ちたいと思いますか？
 Q6 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか？
 Q7 自分にはよいところがあると思いますか？
 Q8 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？
 Q9 他の学校の授業を受けてみたいですか？
 Q10 昨年、本校の何人かの生徒が連携校の授業に参加しました。あなたも、受けてみたいですか？

更農 — 質問1（他校生徒との交流経験）

はい n=92 いいえ n=12



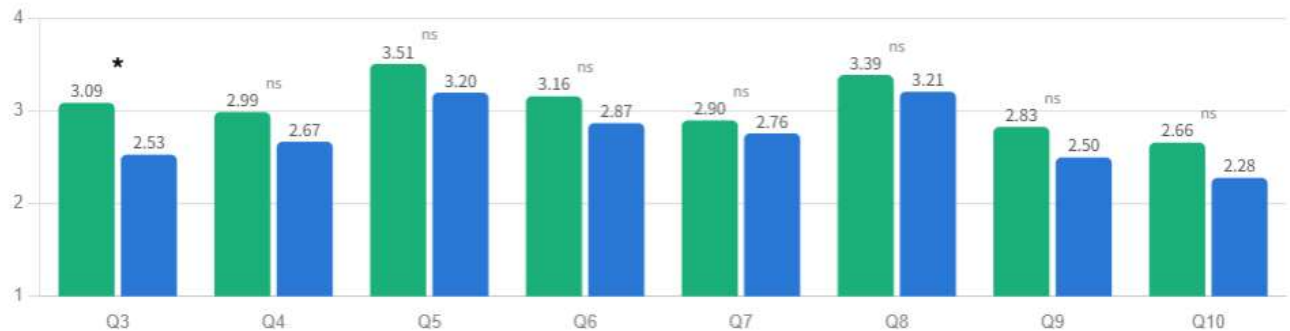
更農 — 質問2（他校の授業・行事への参加経験）

はい n=71 いいえ n=33



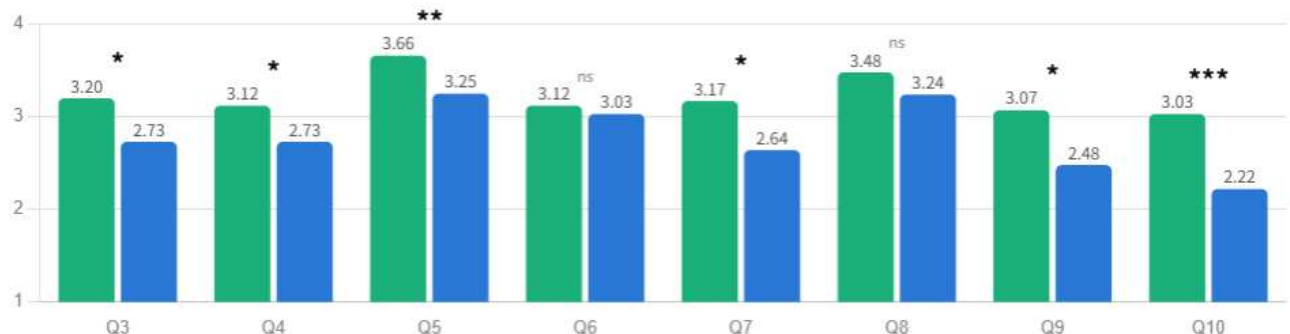
中高養一 質問1（他校生徒との交流経験）

はい n=70 いいえ n=30



中高養一 質問2（他校の授業・行事への参加経験）

はい n=41 いいえ n=59



■ はい ■ いいえ * p<.05 ** p<.01 *** p<.001 (Welchのt検定、無印は有意差なし)

学びの質、教育課程への位置付けを議論 =連携協議会=

6月29日（月）本年度1回目のB地区連携協議会が開催されました。

昨年実施した美術科、音楽科、保健体育科の共同学習を報告した後、令和8年度の推進計画や「モデル事業」後を見通した「インクルーシブな学校運営計画案」について説明しました。

協議における主な意見は次の通りです。

- 今後も笑顔がいっぱい見られるような授業づくりをして欲しい。CS委員に取組の評価をしてもらってはどうか。
- 活動が楽しいだけでなく、学びの質の向上につながっていると思う。
- 共同学習は教科の特性が生かされており、参加していることの実感や達成感につながっている。
- リーフレットが見やすい。広報を工夫し地域の方々の理解を大切にしたい。
- 推進目標について、生徒は何をしたいのか生徒自身はそれを言えるのか、保護者や地域は何をするのか、生徒、保護者や地域を主語にした目標を考えて欲しい。
- 更農生の参加者数を増やす工夫をしたい。オンライン共同学習を定着させるため、中高養普通科の教育課程に位置付けるなどの方策が必要。
- 地域貢献学習は更農に加え、中札内の小中学校との合同開催も検討できないか。